

睡眠障害改善に向けた夜間頻尿への積極介入の有用性の検討

○桑島 寛幸<sup>1</sup>, 織田 圭之介<sup>1</sup>, 石原 孝<sup>1</sup>, 大串 紗代<sup>1</sup>, 太田 薫<sup>1</sup>, 小野 悠介<sup>1</sup>,  
佐藤 真実<sup>1</sup>, 仙頭 早枝<sup>1</sup>, 田中 正臣<sup>1</sup>, 永江 桃子<sup>1</sup>, 原 健輔<sup>1</sup>, 山口 友希<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>そうごう薬局)

【目的】高齢者において、夜間頻尿によって睡眠が妨げられていることは広く知られている。一方、窓口応対時、睡眠障害を持つ患者が、夜間頻尿について医師に伝えていないケースが多々見られる。そこで、今回我々は睡眠障害と夜間頻尿の実態調査を行い、保険薬局において睡眠障害改善に向けて夜間頻尿に対し積極介入を行うことの有用性を検討した。

【方法】50歳以上の泌尿器疾患治療薬を服用していない男女に対し睡眠状況・過活動膀胱症状質問票の聞き取りを実施。睡眠障害のある患者のうち、過活動膀胱が疑われる患者について医師にトレースレポートを提出。過活動膀胱の治療が行われた患者に治療開始後の睡眠状況・過活動膀胱症状質問票の聞き取りを実施。

【結果】調査対象者の45%が睡眠障害を抱えており、睡眠障害を訴える患者の17%に過活動膀胱の疑いがあり、83%に夜間排尿があることがわかった。さらに、夜間排尿は睡眠障害のうち特に中途覚醒に影響を与えていることがわかった。また過活動膀胱の有無・程度によらず睡眠障害を訴える患者の70~80%が睡眠の質を良いと評価している。夜間頻尿の治療により睡眠時間が延長し、睡眠の質の自己評価が向上する傾向があることがわかった。

【考察】夜間排尿が睡眠障害の要因の一つになっているにも関わらず、加齢現象として受容しているなどの理由により、未治療の患者が多く存在しているのではないかと推測される。今回の結果より、薬剤師により積極的な排尿状況の聞き取りを行い、夜間頻尿を治療につなげることは、睡眠障害の改善に有用であることが示唆される。